

# 「日本一の健康都市づくり」をめざす十日町市など三事業を視察

厚生文教委員会に委員として所属する、久永かずえ議員は、10月21日、23日の3日間、三市の3事業を視察した。主な内容を報告する。



## 新潟県十日町市 「たっしやで100事業」

十日町市では「日本一の健康都市づくり」を目指し、様々な取り組みを実施。60歳以上の高齢者を対象に、生きがいづくり、健康寿命を延ばし地域社会で活躍すること、介護予防を推進し、医療費を抑えることを目指し、「元気で100歳をむかえよう」と事業がスタート。

### ポイント制で

「無料入浴券」の特典  
市が主催、または共催し、現在実施している健康や生きがいづくりなどの対象事業に参加するとカードにポイントが加算され、20ポイント達成で「無

大府  
かわら版



料入浴券」となる。

## 高齢化率上昇 医療費横ばい

十日町市は高齢化率が30・6%と高く財政も厳しい。その為、医療費を今以上に増やさないことも目標にしている。年々高齢化率は上がっているにもかかわらず、医療費は横ばい、19年度一人あたりの医療費も大府市を約6万円下回る(表)。「健康都市大府」としても、今後どういった特色ある「健康」を目指すのか、大きな課題である。

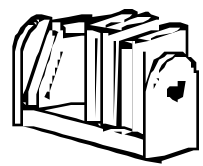
	人口	65歳以上	高齢化率(%)	40歳以上も含む 介護保険対象者	19年度老人保健 一人あたりの医療費
十日町市 (4月1日現在)	61,701人	18,925人	30・67%	2,909人 (15・3%)	6.7万9千円
大府市 (11月1日現在)	84,597人	13,929人	16・5%	2,089人 (14・9%)	7.4万2千円

東京都千代田区

## 図書館の指定管理と運営

千代田区は、人口約4万6千人だが、昼間の人口は約85万人から100万人とも言われている。図書館は、区役所本庁

舎や授産施設などの複合的なビル9階と10階に位置する。1階には授産施設で作られた、パンやお菓子が「さくらベーカリー」(写真左)で販売される。



## 年間利用100万人

新しい図書館はどうあるべきか?千代田区の特徴を研究して作られた図書館は年間100万人の利用者。貸し出し業務だけでなく、調査研究し、問題解決できる「総合図書館」といった専門性が認められ、リピーターも多い。

## 5つの機能コンセプト

区内の施設店舗(グルメ)情報の案内・地域と連携し、書籍入手の手伝いセカンドオフィスとなるよう調査機能やスペースの提供  
区民の書齋として学生も学び・考える力が育つ環境を整備  
歴史探究のジャンルもあり、千代田

## 障がい者が手がける パン屋さん



区図書館ならではの、資料の活用や調査環境を整備

託児のサービスを行い、保護者の学習の環境を保障。親子のスペースや学校教育支援のベースにもなっている

## サービスは指定管理者 責任は行政



全国でも、指定管理者制度の導入がうまく進んでいない自治体もある中で、課題となる人件費の問題など対応されているように感じたが、千代田区は、1年ごとに(一般的には5年間での予算)予算要求ができることから、新たなサービス向上となれば当然行政の持ち出しは増えてくる。

図書館法に「無料貸し出しの原則」があるため、創意工夫の範囲は限られ利用者が増えれば赤字になる。本来利益を生まない事業はやはり、行政が責任をもち、行っていくべきである。

他 長野県諏訪市

「ものづくり教育について」視察した

<ご要望、ご意見は>

山口広文市議会議員

TEL:47-3774

久永かずえ市議会議員

TEL:44-3245

森山まもる前市議会議員

TEL:44-0205

= 知多地区ホームページ =

<http://jcp-chita.com/>

= 久永和枝ホームページ =

<http://k-hisanaga.net/>